

## 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果（速報・第 91 報）

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定（以下「4市協定」という。）」に基づき、発電所から半径 10km 圏内で実施している発電所周辺の環境放射能調査についてお知らせします。

平成 30 年 8 月 31 日付けの前の報告以降、下記の測定項目はすべて過去の変動幅（特に断りのない限り、東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故（以下「東電事故」という。）発生前の過去 10 年の最小値と最大値の範囲）の範囲内でした。

なお、東電事故以降平成 29 年度までの間の最小値と最大値の幅である「震災後の変動幅」を併記した項目があります。

## 記

## 1 測定結果（表中の括弧内の数値は検出下限値を表す）

## (1) 浮遊塵（採取期間：2018/8/1～2018/9/2）

表 1

単位：mBq/m<sup>3</sup>

採取地点	測定機関	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
御前崎市 白砂	監視センター	検出されず (0.0085)	検出されず (0.0081)	2.29±0.06 (0.19)
御前崎市 中町	中部電力㈱	検出されず (0.0090)	検出されず (0.0073)	1.76±0.05 (0.15)
御前崎市 平場	監視センター	検出されず (0.0090)	検出されず (0.0074)	2.06±0.06 (0.17)
御前崎市 白羽小学校	中部電力㈱	検出されず (0.011)	検出されず (0.0070)	1.78±0.05 (0.14)
牧之原市 地頭方小学校	中部電力㈱	検出されず (0.0088)	検出されず (0.0091)	1.83±0.05 (0.16)
過去の変動幅*		検出されず	検出されず	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 7.78	検出されず～ 8.21	

※ 平成 14～22 年度の測定値の最小～最大の範囲です。

## (2) 海底土 (採取日: 8/28)

表 2-1 (御前崎港以外の採取地点\*)

単位: Bq/kg 乾土

採取場所	測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$
周辺海域 (9地点)	監視センター	検出されず (0.63~0.78)	検出されず (0.66~0.80)	570~750 (31~35)
	中部電力(株)	検出されず (0.73~1.1)	検出されず~0.86 (0.51~0.73)	468~750 (24~31)
過去の変動幅		検出されず	検出されず~ 1.2	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず~ 0.47	検出されず~ 1.4	

※ 菊川河口、高松沖、尾高漁場、中根礁、浅根漁場、1, 2号機放水口付近、取水口付近、3号機及び4号機放水口付近、5号機放水口付近の計9地点です。

表 2-2 (御前崎港\*)

単位: Bq/kg 乾土

採取場所	測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$
御前崎港	監視センター	検出されず (0.76)	2.1±0.3 (0.79)	700±10 (36)
	中部電力(株)	検出されず (0.99)	2.6±0.3 (0.81)	710±10 (33)
過去の変動幅		検出されず	検出されず~ 2.7	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず~ 1.6	1.3~3.1	

御前崎港の海底土は、表 3-1 の周辺海域 (9地点) のものと性状が異質であり、放射性核種の蓄積状況が大きく異なることから、過去の変動幅等を別枠として定めています。

## &lt;参考&gt;

原子力規制庁委託の環境放射能水準調査の降下物

(採取期間: 2018/8/1~2018/9/2、採取地点: 静岡市葵区)

表 3

単位: Bq/m<sup>2</sup>

測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$	$^7\text{Be}$ (参考)
監視センター	検出されず (0.057)	検出されず (0.041)	検出されず (1.3)	94±0.66 (2.0)